

佳作

憧れ

山形県大江町立大江中学校

3年 渡辺 陽向

僕の住んでいる大江町左沢三区には、昔から受け継がれてきた良き伝統がある。それは、獅子舞踊りだ。大江町で毎年、秋になると開催される秋祭り。秋祭りでは、大きな御神輿の中に人が乗り演奏しながら町を練り歩く囃子屋台や、御神輿、道具を持ちながら踊り歩く奴踊りなどが出歩き、町内全体が賑わう。僕の住んでいる地域では、昔から獅子舞踊りを秋祭りでの出し物として受け継いできた。そんな獅子舞を小さな頃からずっと見ていた僕にとって、獅子舞は憧れの一つであった。

僕が物心のついた時には、獅子というのは中にいつもなじみのある大人が入っていて、獅子の顔を頭の上に乗せているとは知らなかった。そのため、僕は本当に、恐ろしい怪物が町にやってくる、襲いに来たのだと思って逃げ回っていたため、その時は獅子舞が好きだという感情は全くなく、どちらかという嫌いという感情の方が大きかったのかもしれない。そのまま小学生になり、本当の獅子ではなく、中に大人がいるということが分かり、恐怖心がなくなっても、まだ獅子が好きだという気持ちにはなっていなかった。そんな中、小学2年生になった僕は、父に誘われて父たちが踊りを練習している練習場所に行ってみることにした。その頃から僕は獅子舞踊りが大好きである。太鼓の音、笛が奏でるメロディー、獅子の踊り。何がキッカケで好きになったか分からないが、気が付けば獅子舞のメロディーと太鼓の音が耳から離れなくなった。獅子舞踊りは、獅子が7匹と、子どもが衣装を着て鉦をたたいて鳴らす、鉦たたきが二人で構成されている。僕は、その鉦たたきに憧れを持っていた。しかし、僕が小学校3年生の時までは、年上の先輩がいたため、鉦たたきをすることができなかった。

そんな中、小学4年生になり、初めて僕に鉦たたきの話が回ってきた。「ついにきた」という思いで速攻快諾した。鉦たたきが正式に決定してからは、平日の夜の練習が始まった。大人たちがたくさん集まってきて練習するというのは、特別感があってとても好きだった。早速、練習が始まり、鉦たたきとしての踊りを丁寧に教えてもらった。しかし、これまでダンスなどを習わずに、踊りというものに触れてこなかった僕は、行き詰まった。なかなか踊りを覚えられず、本番に近づくとつれ焦りも覚えていた。そこで、獅子舞について詳しく、踊りも上手と定評のあった祖父との自主練習が始まった。祖父は、獅子舞について

の資料もたくさん持っていて、笛の音が録音されている昔ながらのカセットテープを持っていた。僕はそのカセットテープを流しながら、踊りの練習をした。それと同時に、獅子舞の発祥についての資料や情報をたくさん見せてもらった。そのため、僕の獅子舞に対する熱意がさらに増し、鉦たたきへのモチベーションも上がった。そのおかげもあってか、僕はだんだんと上達し、人前で見せられるようになっていた。その勢いのまま、練習を重ねていった。

迎えた本番。町内を踊りながら練り歩いた。踊った数は数え切れないが、つらいという感情はなく、なぜか疲れなかった。今考えてみると、踊るのがとても楽しかったのだと思う。そのまま無事に祭りは終了し、僕の夢が一つかなかった。もう衣服の丈が短く、来年はもう鉦たたきができないということが当時から分かっていた。そのため、最初で最後の鉦たたきを精いっぱい楽しむことができた。いずれ大人になったら、獅子もやりたい。そんなふうに当時の僕には、また一つの憧れができた。

しかし、去年の2023年の秋祭りをもって、「左沢三区獅子舞」は当分の休止、事実上の解散となった。理由は、三区の人口減少による獅子と鉦たたきの人手不足によるものだった。それを聞いた僕はとてもがっかりだった。しかも、最後の獅子舞は部活動の試合と重なり、見るができなかった。今の僕は、心残りがあるまま、一つの憧れを失ってしまった。

ただ、復活できないわけではないと思っている。大江町全体で盛り上がる秋祭り。出し物を披露していない地区も多くある。僕はそんな地区と連携して復活させることができないかと思っている。昔から伝統として受け継がれてきたものを変更する形になるが、その伝統を守ろうとしていたら、獅子舞という大きな伝統が途絶えてしまう。これは、本末転倒だ。もちろん、他の地区と連携するのは、お互いの地区の理解が得られず、安易なものではないと思う。ただ、こうして休止している間に長い時間をかけて、少しずつ少しずつ理解を得ていけば、復活できる可能性は大いにあると思う。どれだけ月日が経とうと、もう一度自分たちの獅子舞を見る。それが、今の僕の憧れである。